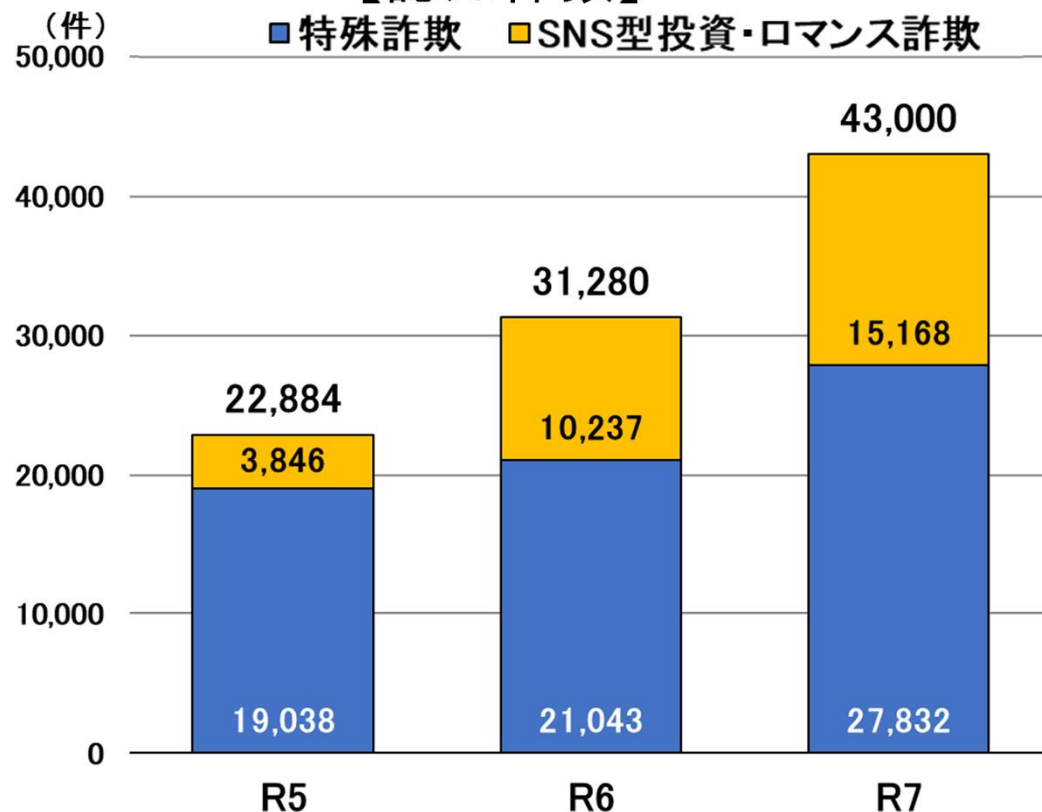

令和7年における 特殊詐欺及びSNS型投資・ロマンス詐欺 の認知・検挙状況等について (確定値)

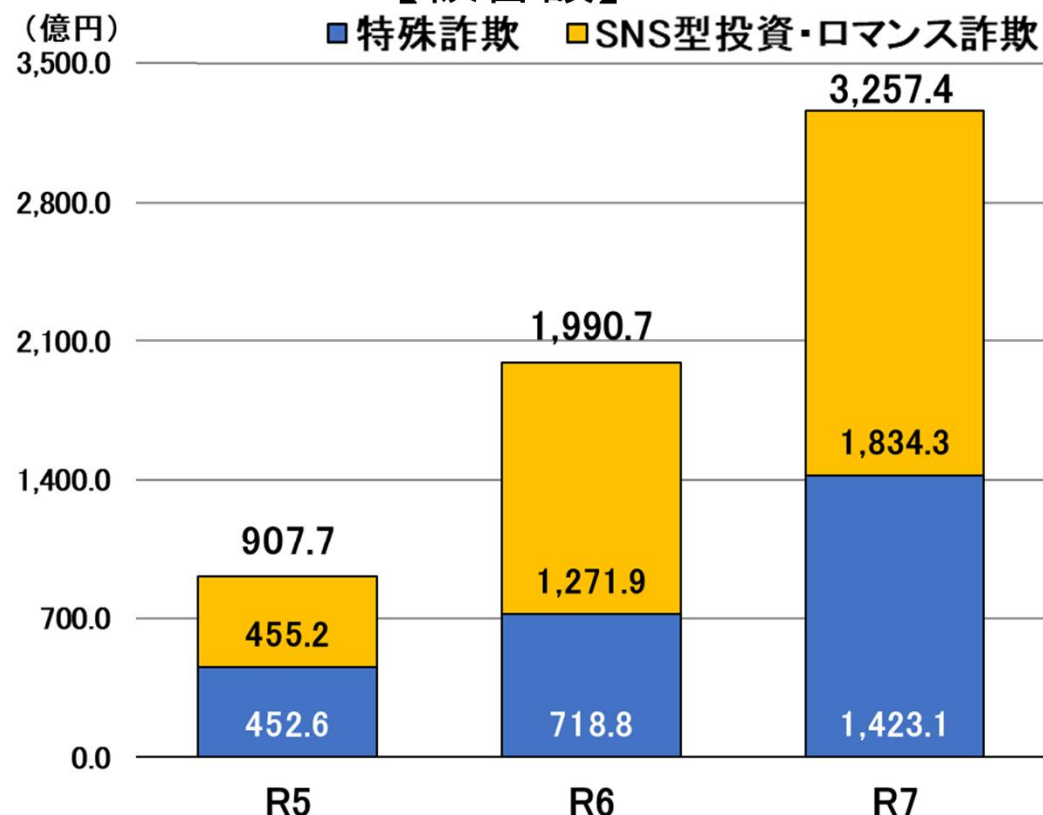
※ 各値の増減(±)は前年比

特殊詐欺及びSNS型投資・ロマンス詐欺の全体概況

【認知件数】



【被害額】



◆認知件数(総数)

43,000件 (+11,720件、+37.5%)

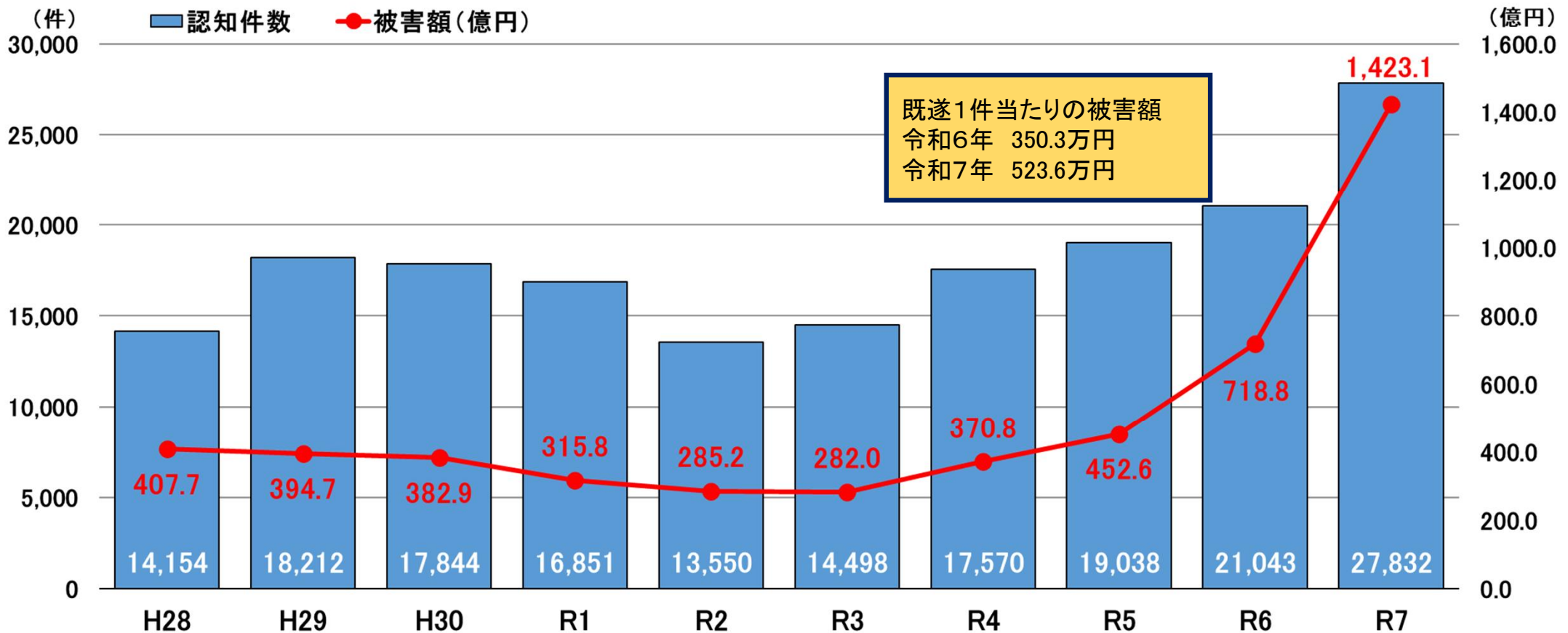
(うち 特殊詐欺 27,832件、SNS型投資・ロマンス詐欺 15,168件)

◆被害額(総額)

3,257.4億円 (+1,266.7億円、+63.6%)

(うち 特殊詐欺 1,423.1億円、SNS型投資・ロマンス詐欺 1,834.3億円)

特殊詐欺の被害状況



◆認知件数

27,832件（+6,789件、+32.3%）であり過去最悪

※これまでは25,667件（平成16年）が過去最悪

◆被害額

1,423.1億円（+704.3億円、+98.0%）であり過去最悪

※これまでは718.8億円（令和6年）が過去最悪

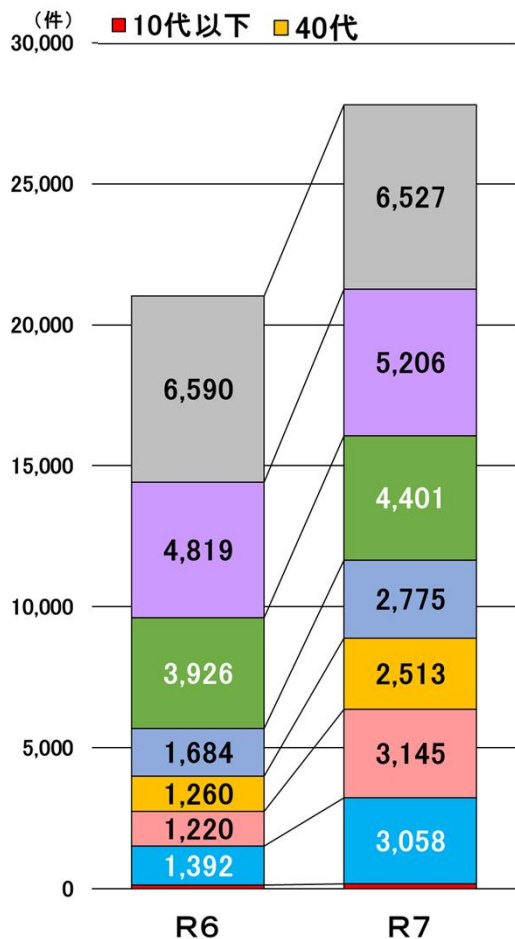
◆増加の主な要因

警察官等をかたり捜査（優先調査）名目で現金等をだまし取る手口（以下「ニセ警察詐欺」という。）
による被害の増加が顕著

特殊詐欺被害について

年代別

30代 60代 80代以上
 20代 50代 70代
 10代以下 40代

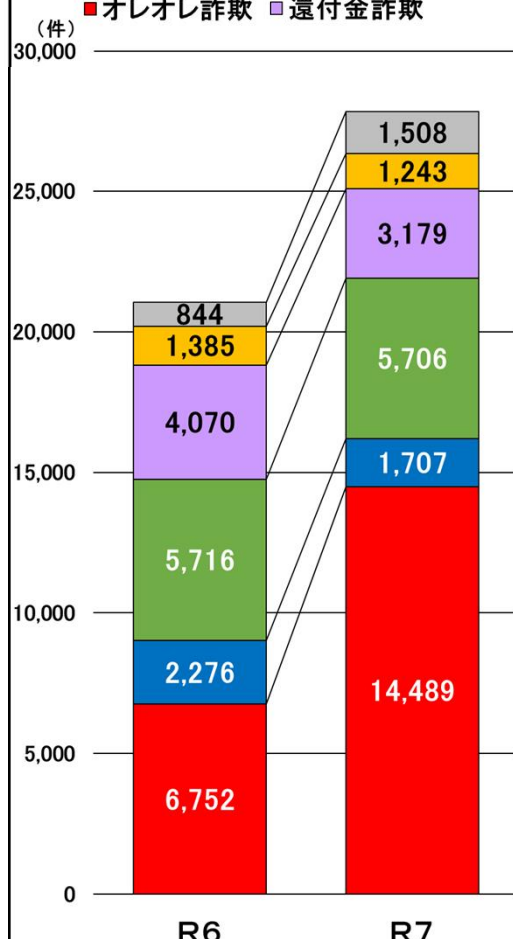


※ 法人被害を除く

○ 20代、30代の認知件数が2倍以上増加しており、若い世代に被害が拡大

主な手口別

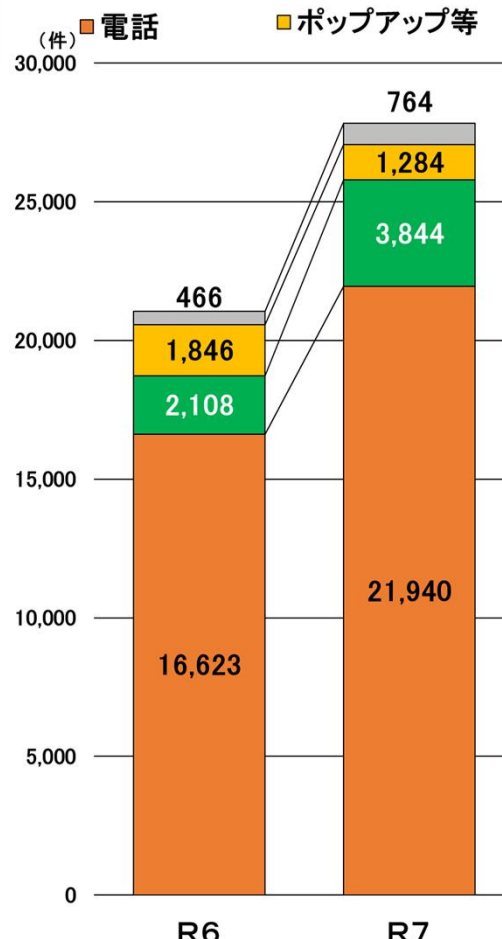
架空料金請求詐欺 その他
 預貯金詐欺 キャッシュカード詐欺盗
 オレオレ詐欺 還付金詐欺



○ オレオレ詐欺の認知件数が2倍以上増加し、他の主な手口は軒並み減少

当初接触ツール

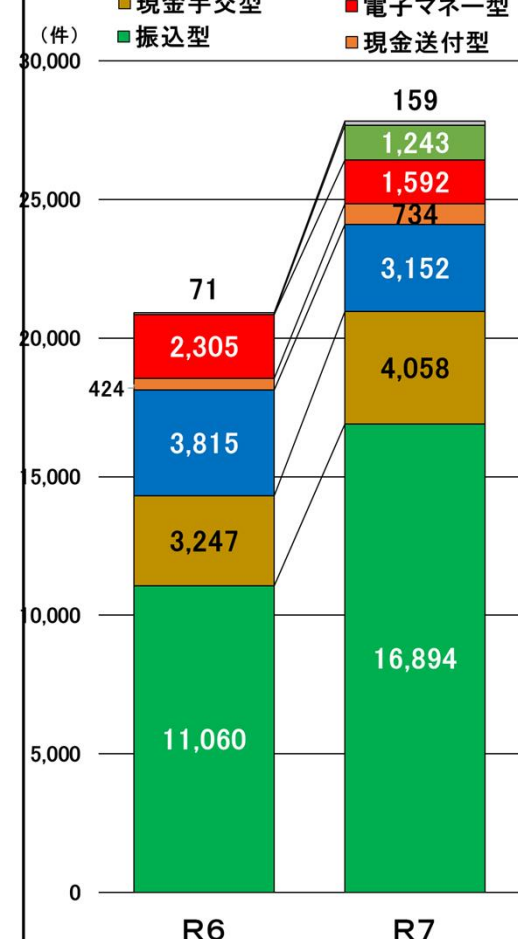
SMS・SNS・メール等 その他
 電話 ポップアップ等



○ 電話が約8割と大半を占める
○ SMS・SNS・メール等が大幅に増加

主な被害金等 交付形態別

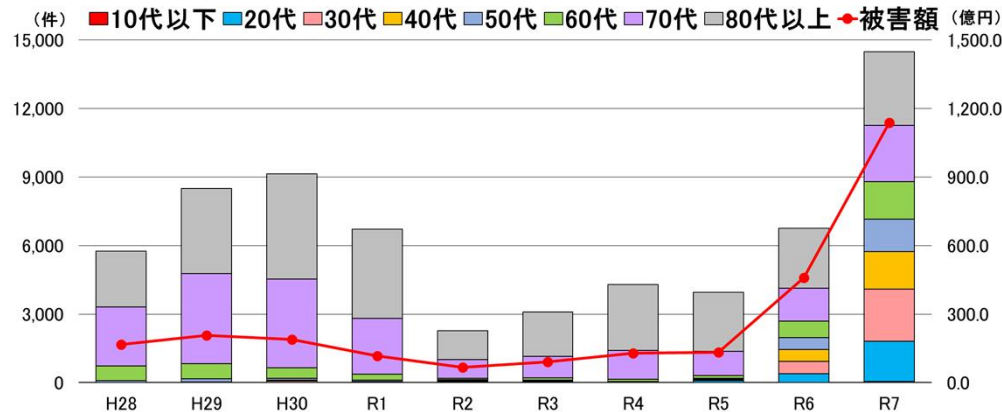
キャッシュカード 暗号資産送信型
 手交型・窃取型 電子マネー型
 現金手交型 現金送付型
 振込型 その他



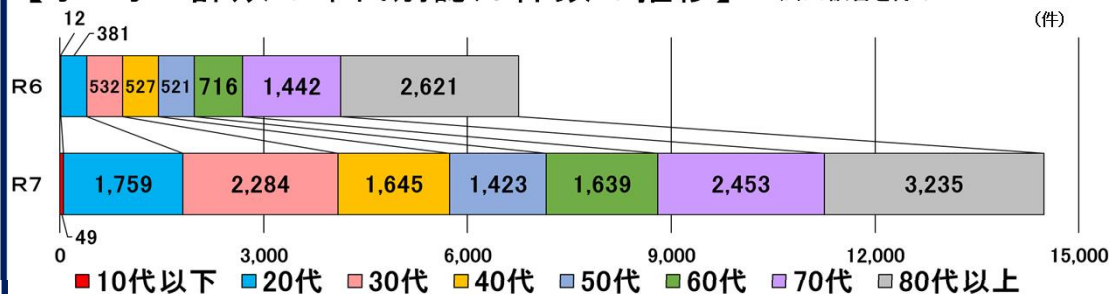
○ 振込型が約6割と多くを占める
○ 暗号資産送信型の増加が顕著

特殊詐欺の主な手口であるオレオレ詐欺の被害状況について

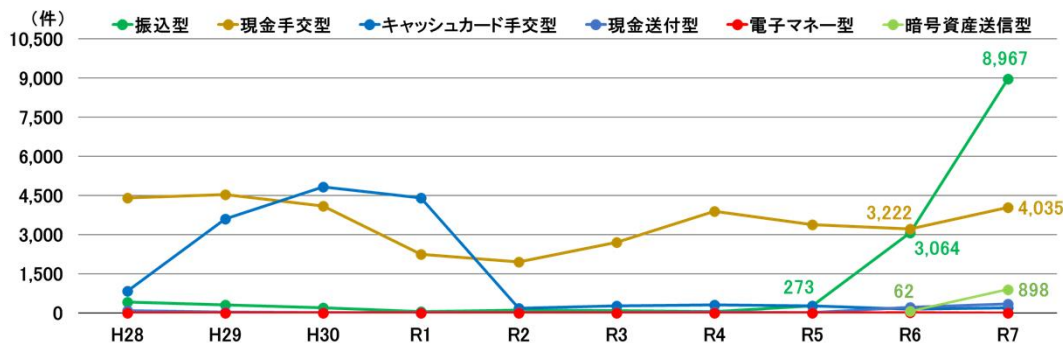
【オレオレ詐欺の被害状況の推移】※ 法人被害を除く



【オレオレ詐欺の年代別認知件数の推移】※ 法人被害を除く



【オレオレ詐欺の主な被害金等交付形態の推移】



- 年代別認知件数では若い年代の増加率が高く、幅広い年代に被害が拡大
- 主な被害金等交付形態では振込型が約6割で急増

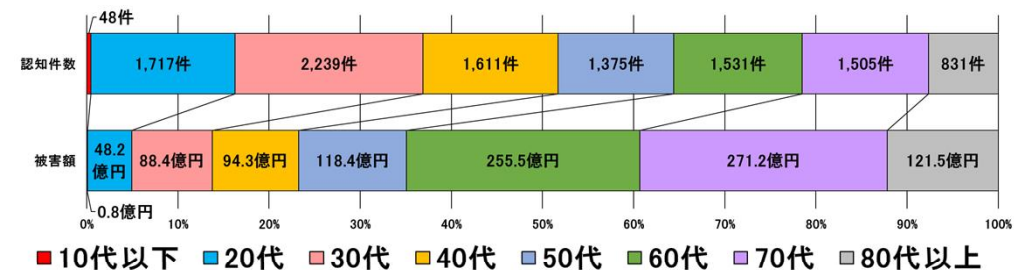
増加の主な要因

ニセ警察詐欺による被害が顕著

	認知件数	被害額
オレオレ詐欺	14,489件	1,138.1億円
うち)ニセ警察詐欺	10,859件	998.7億円

※ ニセ警察詐欺は、令和7年1月から統計を開始。令和6年中に同手口が多数を占めたオレオレ詐欺(その他名目)の令和6年中の認知件数は4,261件、被害額は375.9億円

【ニセ警察詐欺の被害年代の内訳】※ 法人被害を除く



【認知件数からみた特徴】

- 全体のうち30代が最多、次いで20代であり、被害は幅広い年代にわたる

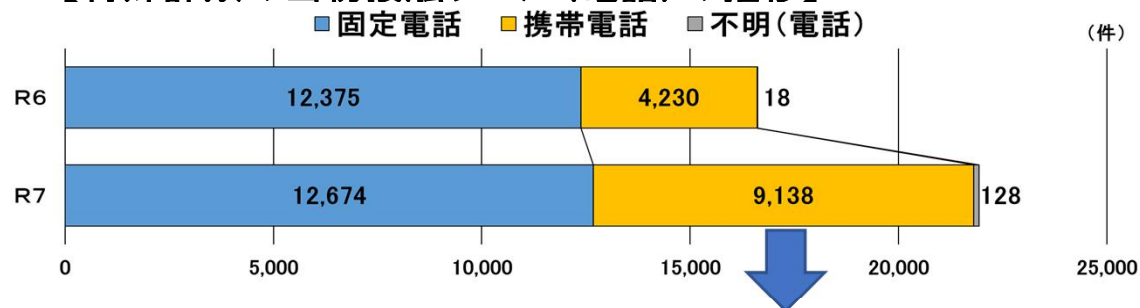
【被害額からみた特徴】

- 全体のうち70代が最多、次いで60代であり、高齢者の既遂1件当たりの被害額が高い

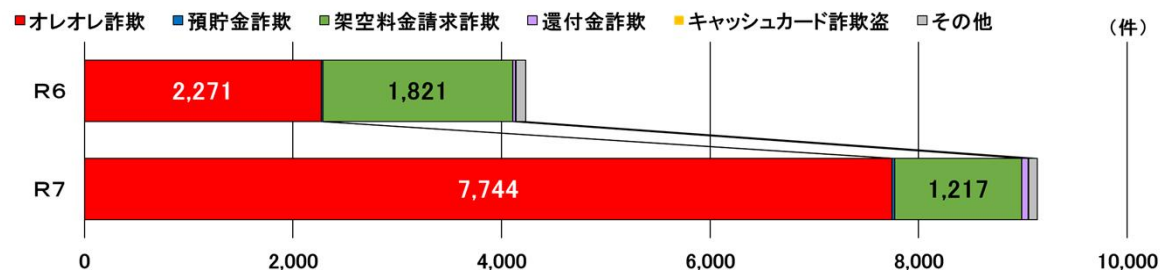
特殊詐欺の当初接触ツールについて①

電話

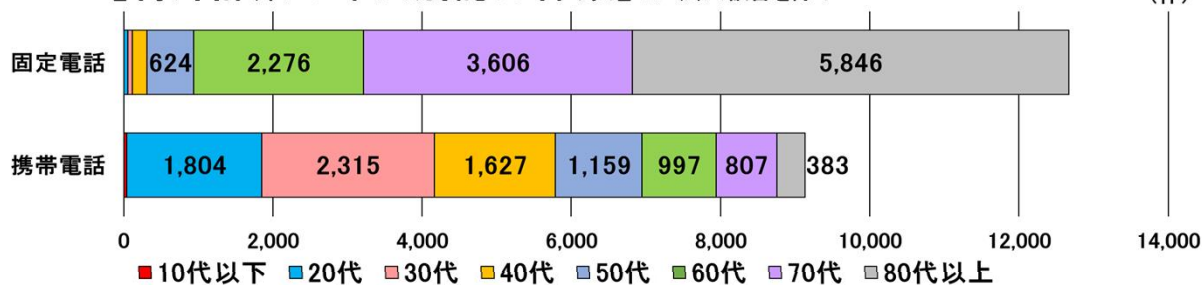
【特殊詐欺の当初接触ツール(電話)の推移】



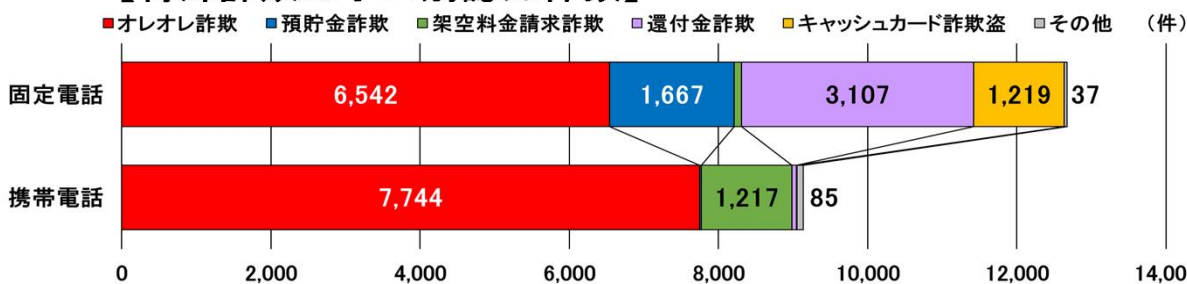
【増加が顕著であった携帯電話の手口別認知件数の推移】



【特殊詐欺の年代別認知件数】※ 法人被害を除く



【特殊詐欺の手口別認知件数】



- 携帯電話が前年の約2.2倍と増加が顕著
- 携帯電話を当初接触ツールとする手口は、オレオレ詐欺と架空料金請求詐欺が大半(オレオレ詐欺が約8割であり、前年の約3.4倍と増加が顕著)

【年代別認知件数】

- 20代～50代は、携帯電話による被害が多く、60代以上は、固定電話での被害が多い。

【手口別認知件数】

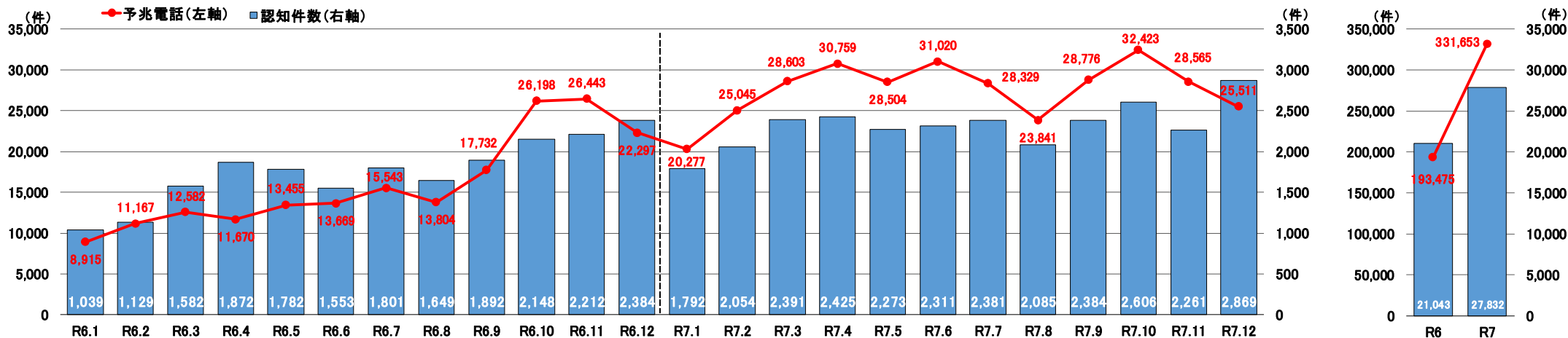
- オレオレ詐欺は、固定電話、携帯電話ともに多い。(固定電話は全体の約5割、携帯電話は全体の約8割)
- 還付金詐欺の大半は固定電話
- 架空料金請求詐欺の大半は携帯電話

特殊詐欺の当初接触ツールについて②

◆予兆電話件数

※ 警察が把握した、電話の相手方に対して、住所や氏名、資産、利用金融機関等を探るなどの特殊詐欺が疑われる電話

令和7年の予兆電話件数については331,653件(前年比+138,178件、+71.4%)

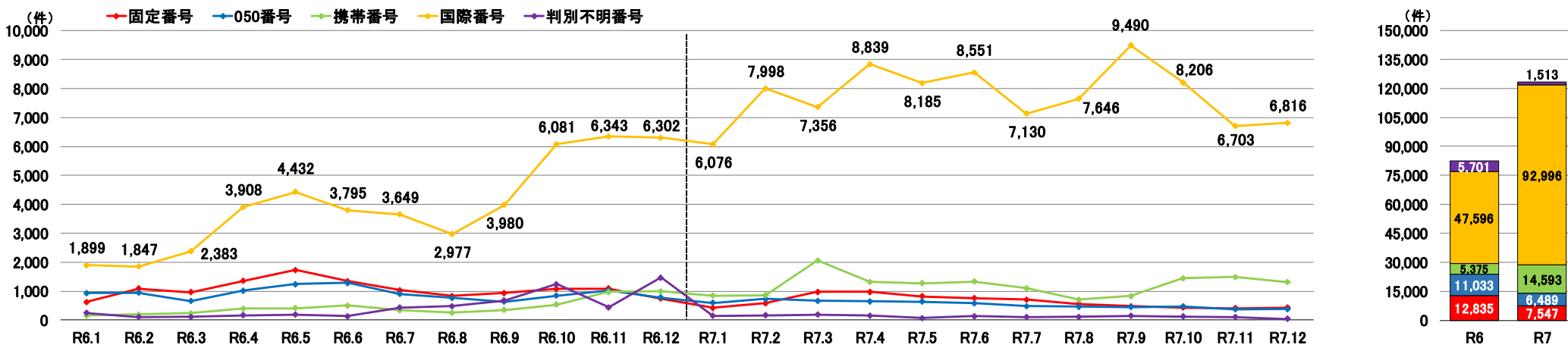


◆特殊詐欺に犯行利用された番号種別

※ 「特殊詐欺の犯行に利用された電話番号数」として、都道府県から警察庁に報告された電話番号数を集計(未遂・相談事案を含む。)

都道府県から報告された電話番号が重複する場合、1件として計上。ただし、月をまたいで同一番号の報告があった場合は、各月1件として計上

令和7年の国際電話番号については92,996件(前年比+45,400件、+95.4%)



○ 予兆電話件数については、認知件数を上回る**増加率(71.4%)** ※ 認知件数の増加率は32.3%

○ 犯行利用された番号種別については、国際電話番号が大幅に増加し、全体の**75.5%**を占める

特殊詐欺の主な被害金等交付形態について

振込型

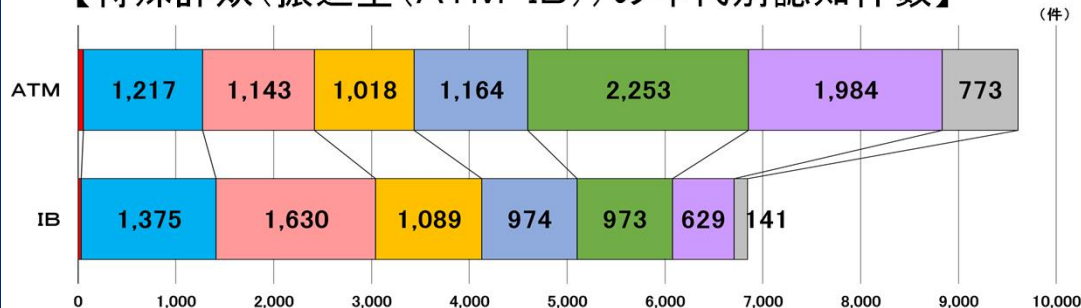
認知件数 16,894件(+5,834件、+52.7%)(全体の約6割)
被害額 823.0億円(+401.4億円、+95.2%)(全体の約6割)

【内訳】

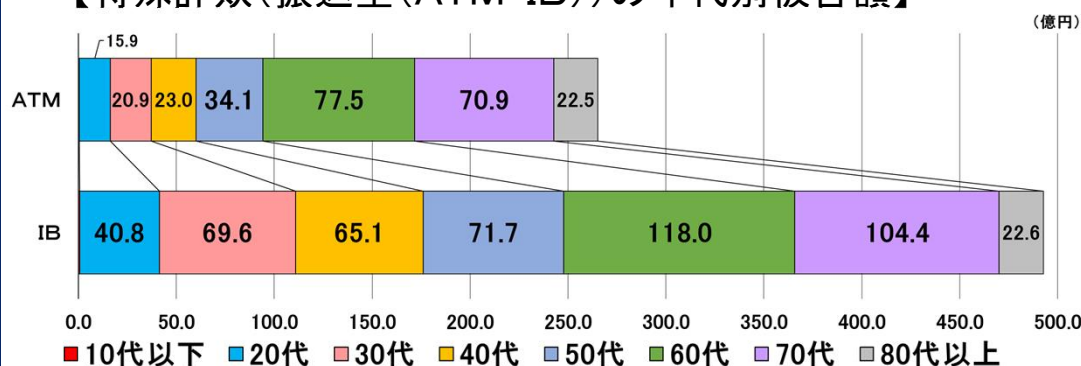
- ・ ATM 認知件数 9,619件、被害額 265.3億円
- ・ IB 認知件数 6,866件、被害額 495.3億円
- ・ 窓口 認知件数 409件、被害額 62.4億円

※振込型の内訳については令和7年から統計開始

【特殊詐欺(振込型(ATM・IB))の年代別認知件数】※ 法人被害を除く



【特殊詐欺(振込型(ATM・IB))の年代別被害額】※ 法人被害を除く



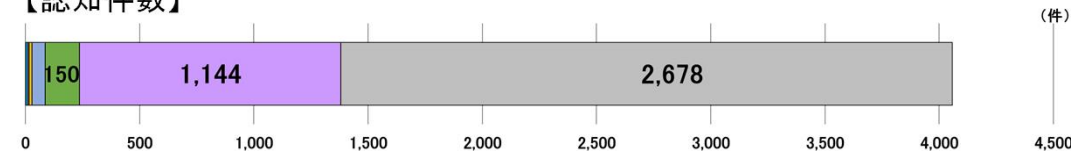
- 既遂1件当たりの被害額はATMに比してIBが高額
- 20代～40代はATMよりIB、50代以上はIBよりATMによる認知件数が多い

現金手交型

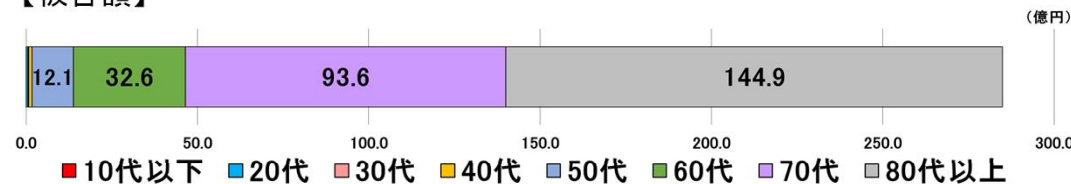
認知件数 4,058件(+811件、+25.0%)(全体の約1割)
被害額 284.9億円(+138.3億円、+94.3%)(全体の約2割)

【特殊詐欺(現金手交型)の年代別被害状況】※ 法人被害を除く

【認知件数】



【被害額】



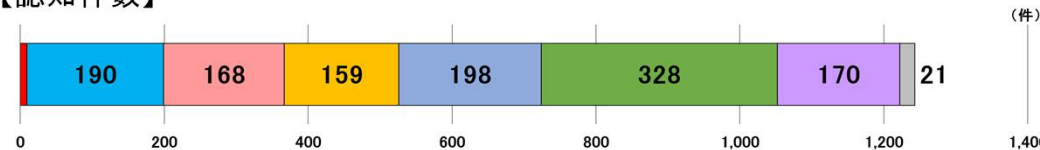
- 60代以上の被害が大半を占め、**金地金**の被害も散見

暗号資産送信型

認知件数 1,243件(+1,122件、+927.3%)(全体の1割以下)
被害額 196.9億円(+162.9億円、+479.4%)(全体の約1割)

【特殊詐欺(暗号資産送信型)の年代別被害状況】※ 法人被害を除く

【認知件数】



【被害額】

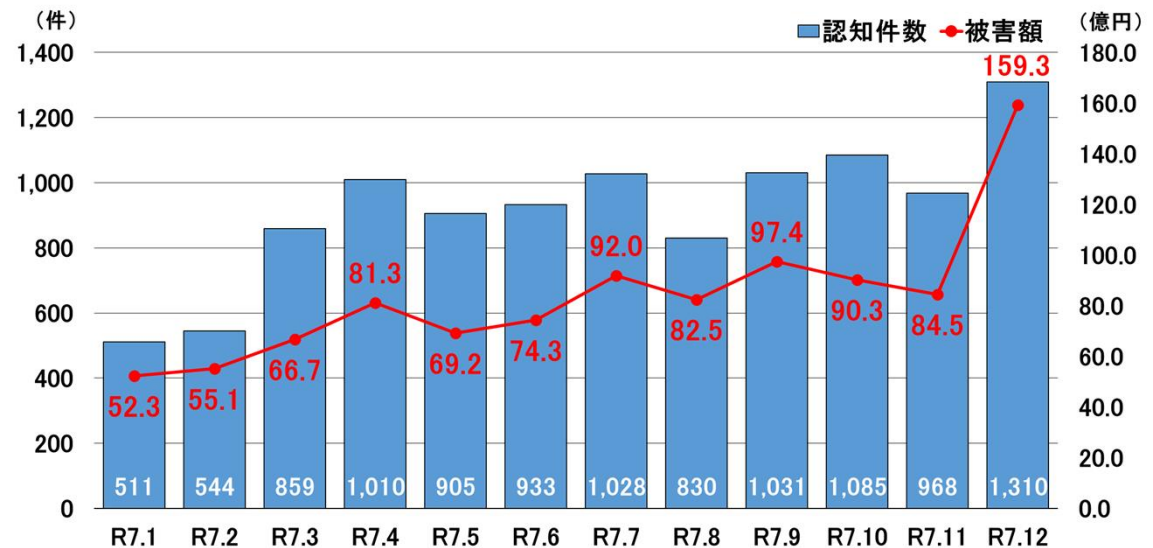


- 幅広い年代に被害が及び、**高齢者の被害が特に高額**

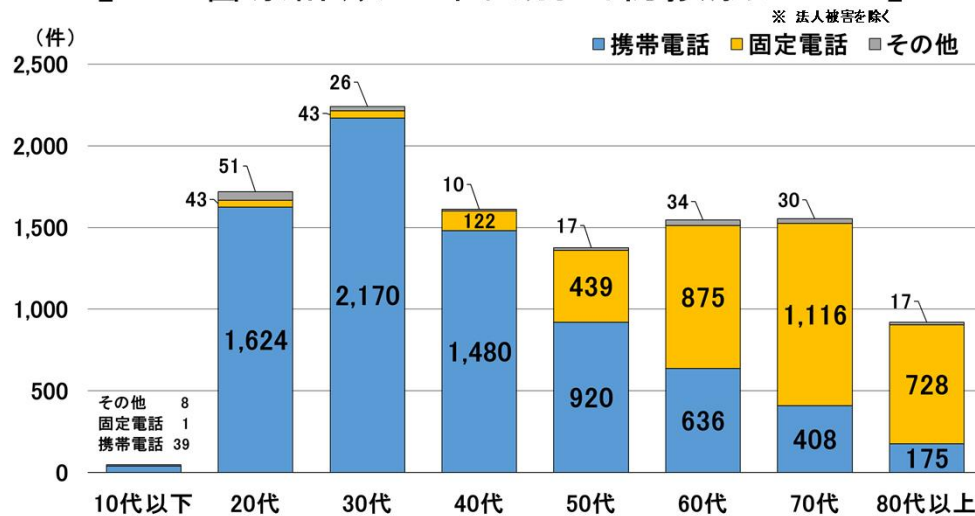
ニセ警察詐欺の被害状況について

- ニセ警察詐欺は、令和7年の特殊詐欺被害の多くを占める
 認知件数 **11,014件** (特殊詐欺全体の39.6%)
 被害額 **1,005.0億円** (特殊詐欺全体の70.6%)
- 令和7年中は年間を通して増加傾向であり、令和8年において更なる対策が急務

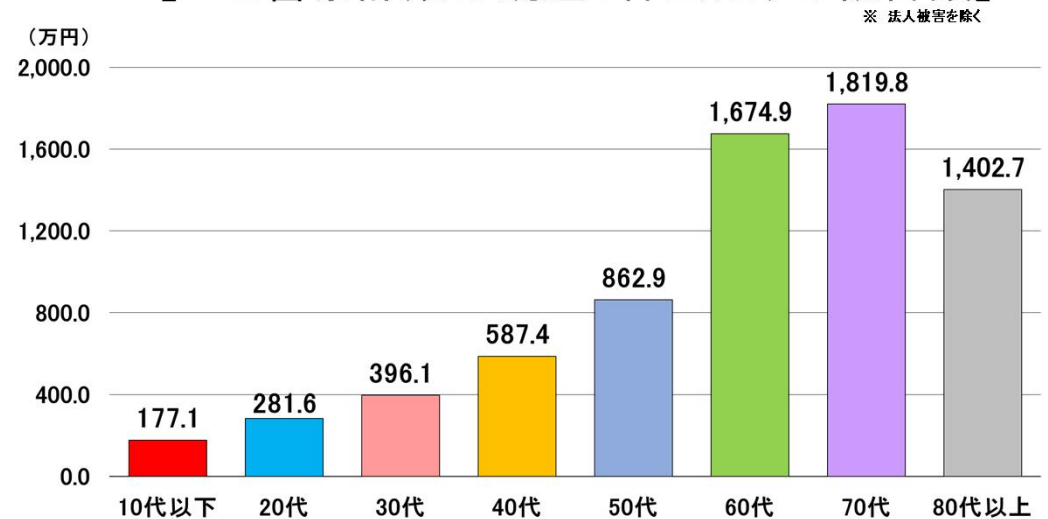
【ニセ警察詐欺の被害状況の推移】



【ニセ警察詐欺の年代別当初接触ツール】



【ニセ警察詐欺の既遂1件当たりの被害額】



- 既遂1件当たりの被害が**高額**となる傾向
- 被害者の年代については**30代**が最多であるが、既遂1件当たりの被害額は**70代**が最多
- 当初接触ツールについては40代以下は**携帯電話が9割以上**であり、50代以上は**固定電話が約6割**

ニセ警察詐欺の主な被害金等交付形態について

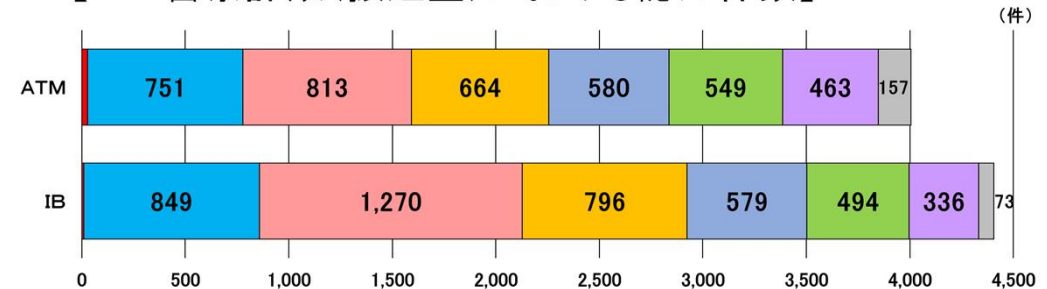
ニセ警察詐欺における振込型による被害
認知件数 8,771件、被害額 612.6億円

【内訳】

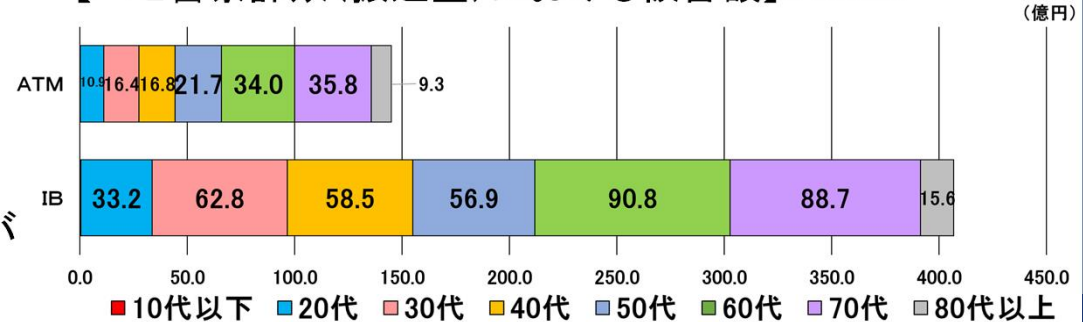
ATM 4,005件、145.1億円
IB 4,408件、407.2億円
窓口 358件、60.3億円

- 振込型がニセ警察詐欺全体の約8割を占める
- 認知件数ではATMとIBは大差ないものの、被害額ではIBがATMの約3倍と高額
- 普段IBを利用しない高齢者等において、犯人からIB口座の開設、設定、振込方法等の指示を受けて被害が発生

【ニセ警察詐欺(振込型)における認知件数】 ※ 法人被害を除く



【ニセ警察詐欺(振込型)における被害額】 ※ 法人被害を除く



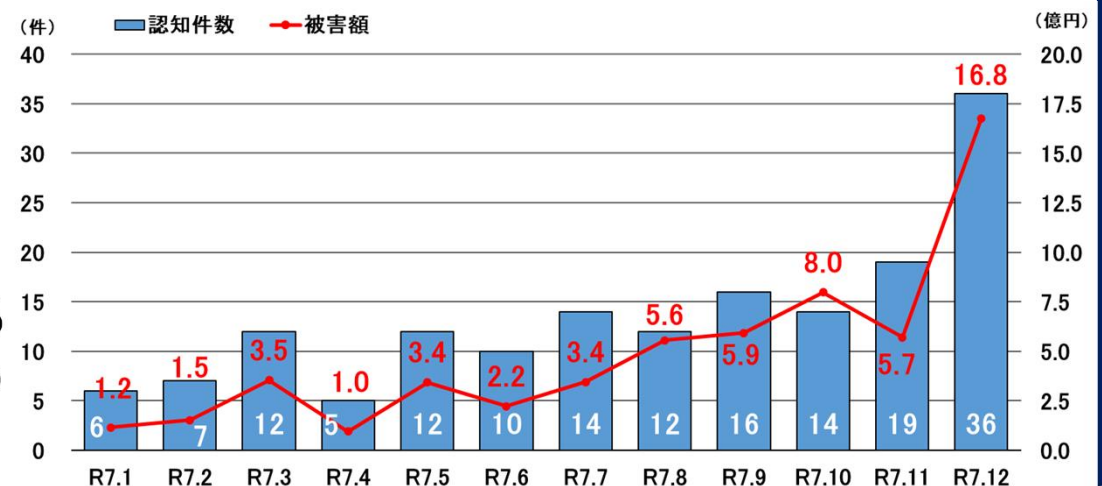
金地金による被害

- 金地金をだまし取るニセ警察詐欺の手口を確認(認知件数・被害額共にニセ警察詐欺が約9割)
- 認知件数 **163件**、被害額 **58.2億円**
(35都道府県で発生)

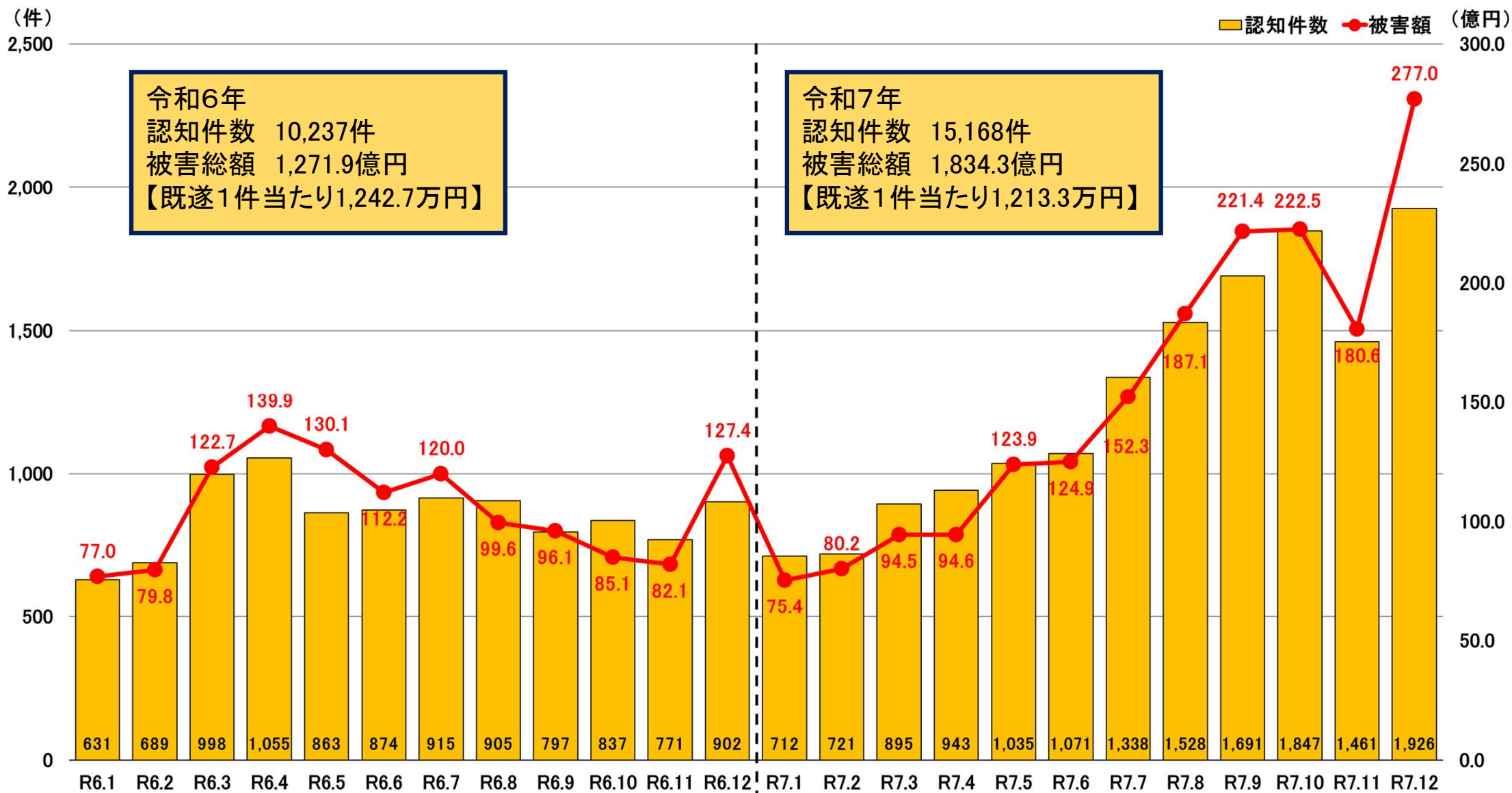
特殊詐欺全体における金地金被害
認知件数 173件、被害額 60.2億円

- 既遂1件当たりの被害額が**3,572.7万円**と高額
- 購入は店頭のほか、電話やインターネットによる
- 交付手段については、犯行グループが指示する場所に郵送させられるほか、受け子が被害者方で回収する手口が大半を占める

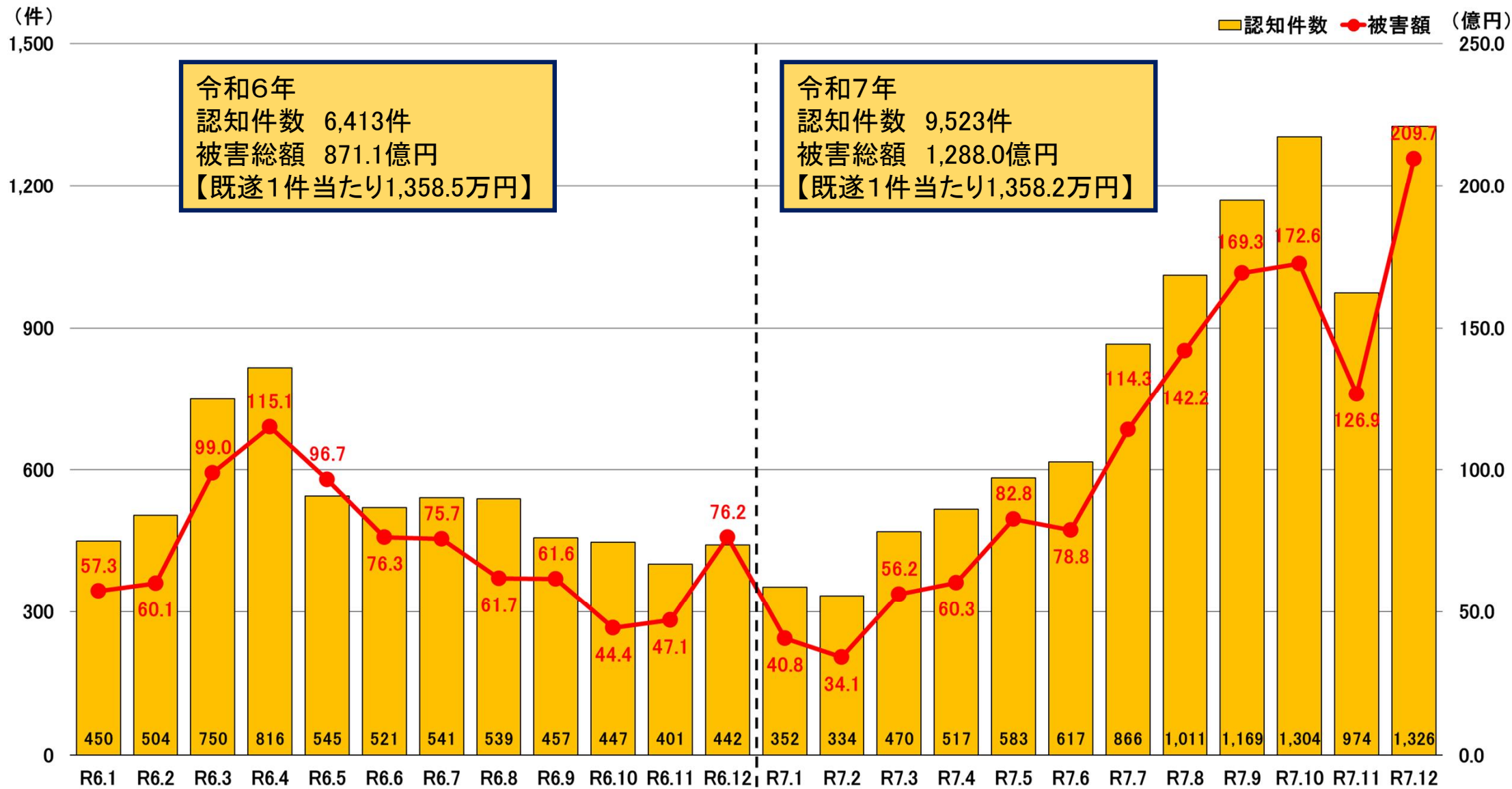
【金地金をだまし取るニセ警察詐欺の被害状況の推移】



SNS型投資・ロマンス詐欺の被害状況



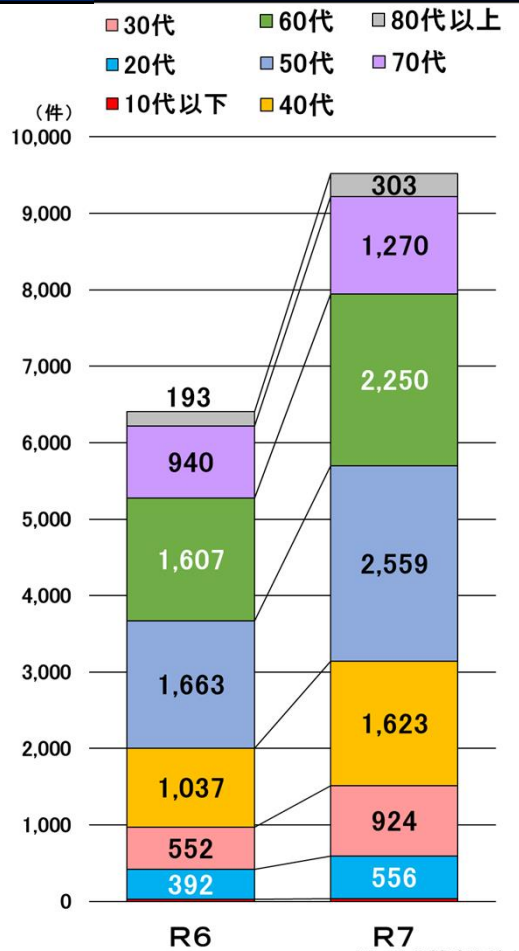
SNS型投資詐欺の被害状況



令和7年7月以降**著名人の画像や動画を無断で使用したバナー等広告**による被害の増加が顕著

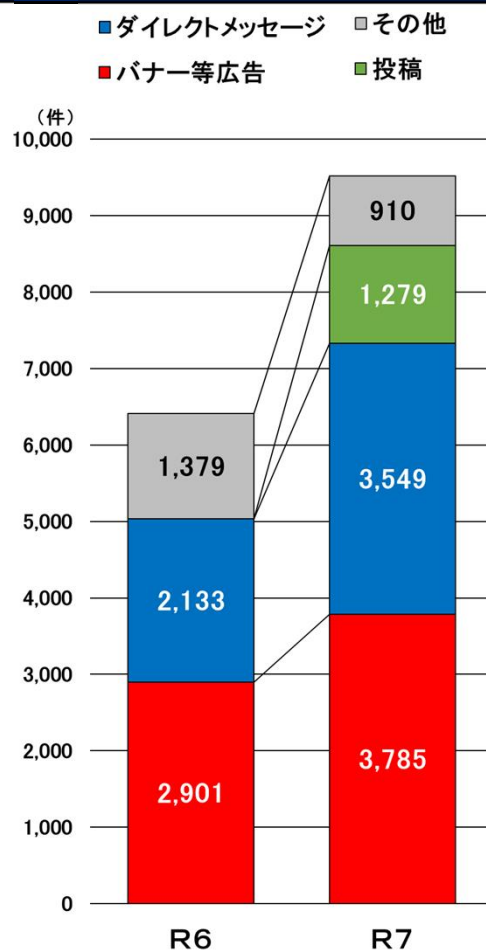
SNS型投資詐欺被害について

年代別



- 50代が最多(前年と同一傾向)
- 増加率は30代が最多、次いで40代と若い年代への被害が拡大

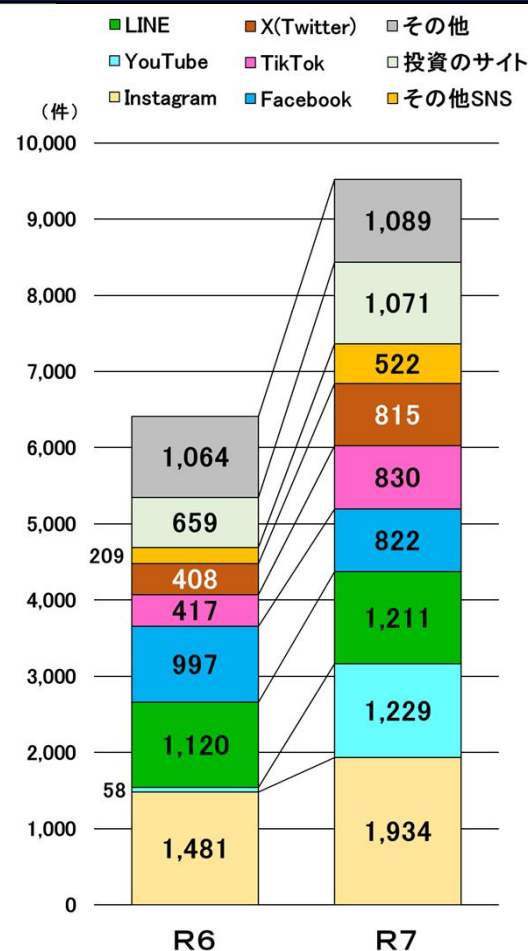
当初接触手段



- 「バナー等広告」が最多、次いで「ダイレクトメッセージ」が多い
- 「ダイレクトメッセージ」の増加率が66.4%で最多

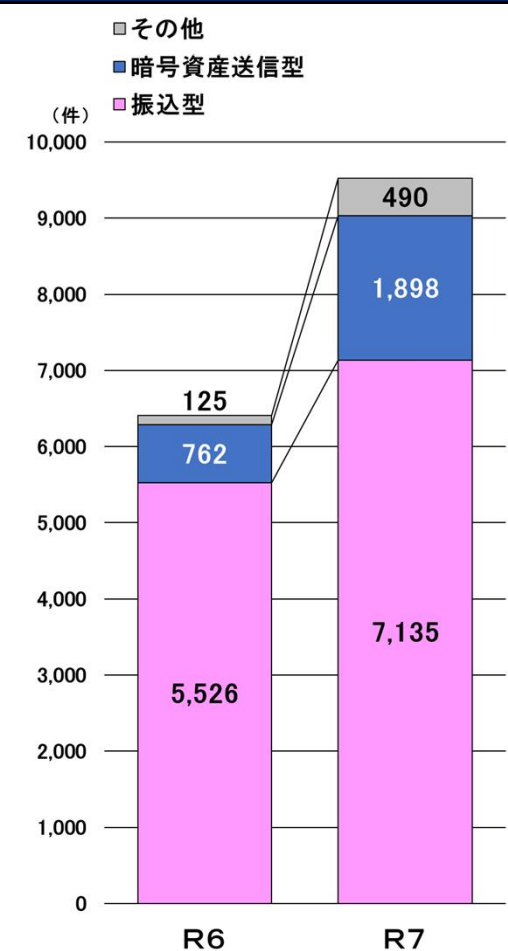
※ 投稿はR7から統計開始(R6はその他に含まれる。)

当初接触ツール



- 「Instagram」が最多、次いで「YouTube」が多い
- 「YouTube」が前年比で約21倍に増加

主な被害金等 交付形態別

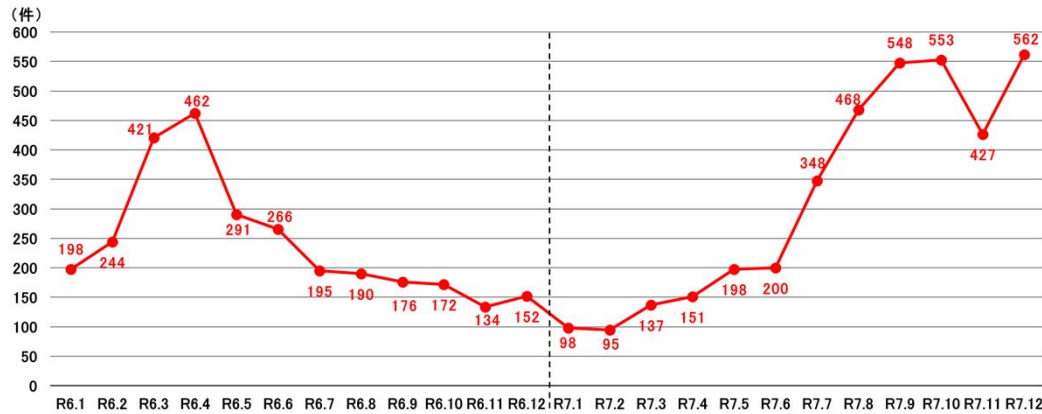


- 「振込型」が最多、次いで「暗号資産送信型」が多い
- 「暗号資産送信型」が前年比で約2.5倍に増加

SNS型投資詐欺の当初接触手段について①

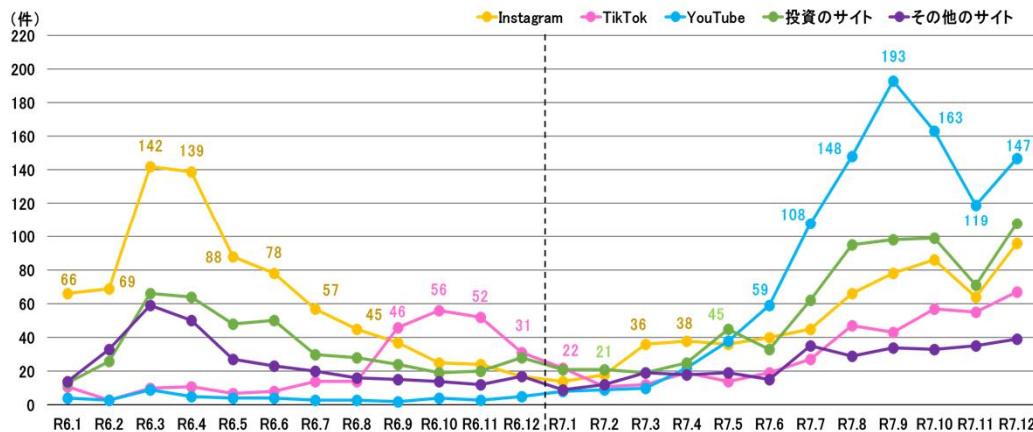
バナー等広告

【バナー等広告の推移】



令和7年7月以降に急増

【バナー等広告の主な当初接触ツールの推移】



「YouTube」の増加が顕著

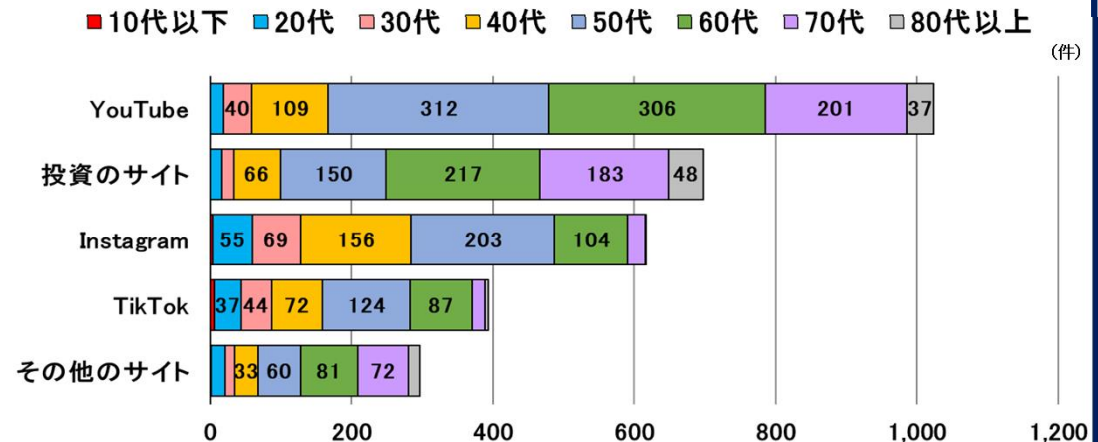
【バナー等広告からLINEの「投資グループ」に誘導される流れ】



バナー等広告で接触後にLINEに誘導される割合が約9割

【作成協力：馬淵磨理子氏】

【バナー等広告の主な当初接触ツールの年代別認知件数】

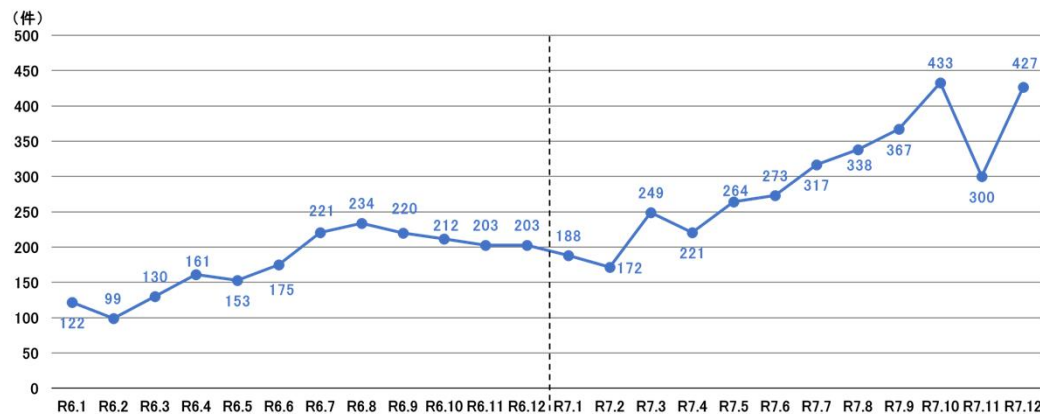


60代～70代 YouTube、投資のサイトによる被害が多い
30代～50代 YouTube、Instagramによる被害が多い

SNS型投資詐欺の当初接触手段について②

ダイレクトメッセージ

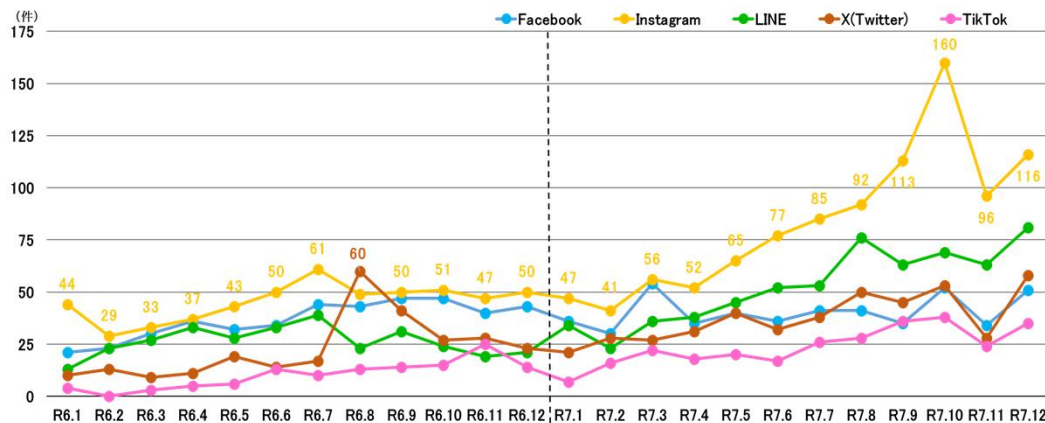
【ダイレクトメッセージの推移】



年間を通して増加



【ダイレクトメッセージの主な当初接触ツールの推移】



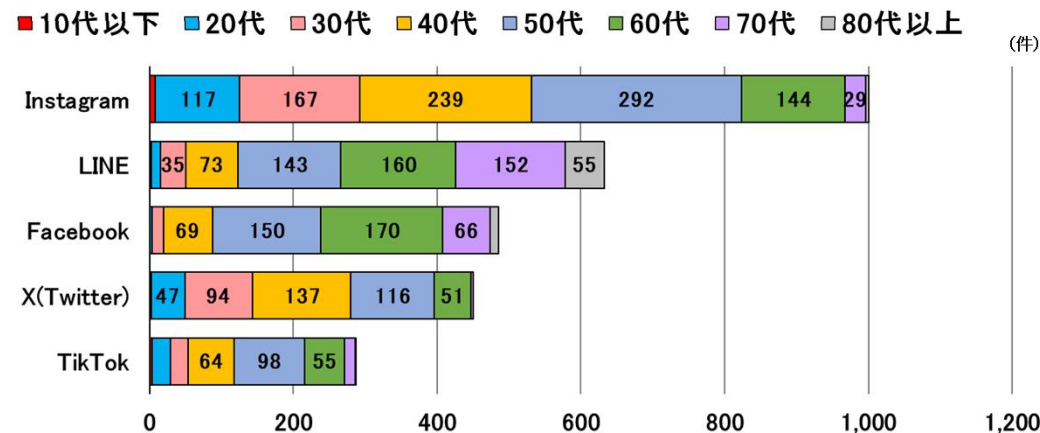
「Instagram」の増加が顕著

【ダイレクトメッセージからLINEの「投資グループ」に誘導される流れ】



ダイレクトメッセージで接触後にLINEに誘導される割合が約9割

【ダイレクトメッセージの主な当初接触ツールの年代別認知件数】



30代～40代 Instagram、Xによる被害が多い

50代～60代 Instagram、LINE、Facebookによる被害が多い

SNS型投資詐欺の主な被害金等交付形態について

振込型

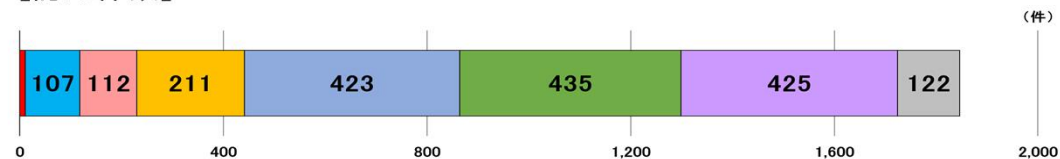
認知件数 7,135件(+1,609件、+29.1%)(全体の約7割)
被害額 1,000.6億円(+236.9億円、+31.0%)(全体の約8割)

【内訳】

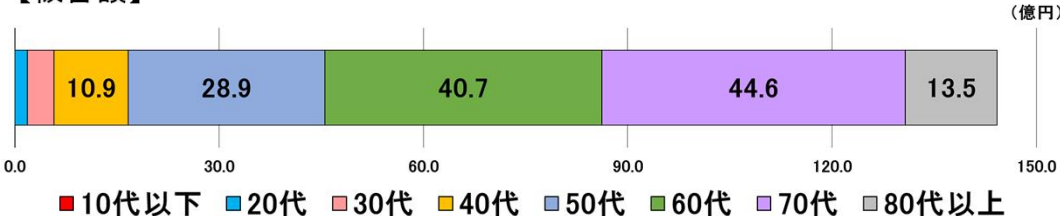
- ・ ATM 認知件数 1,846件、被害額 144.3億円
- ・ IB 認知件数 5,049件、被害額 807.2億円
- ・ 窓口 認知件数 240件、被害額 49.2億円

【SNS型投資詐欺(振込型(ATM))の年代別被害状況】

【認知件数】

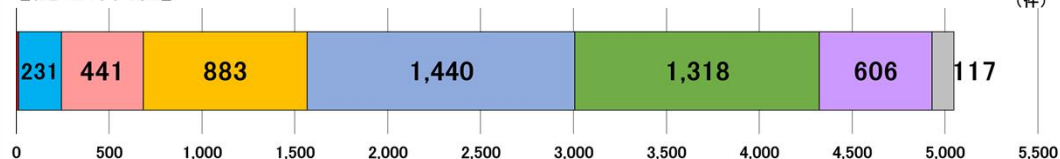


【被害額】

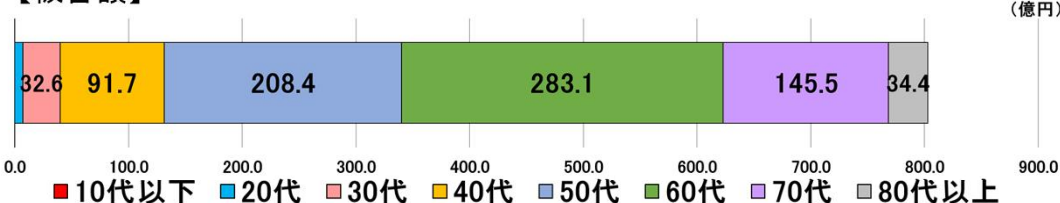


【SNS型投資詐欺(振込型(IB))の年代別被害状況】

【認知件数】



【被害額】

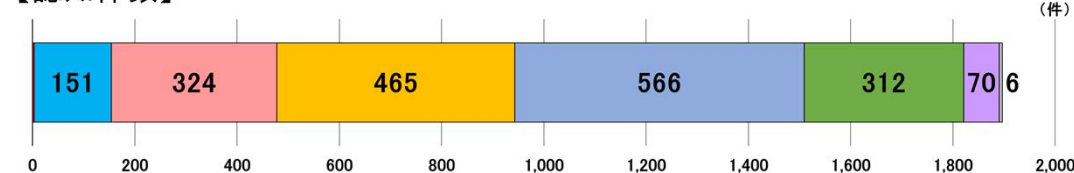


暗号資産送信型

認知件数 1,898件(+1,136件、+149.1%)(全体の約2割)
被害額 215.5億円(+127.5億円、+145.0%)(全体の約2割)

【SNS型投資詐欺(暗号資産送信型)の年代別被害状況】

【認知件数】



【被害額】



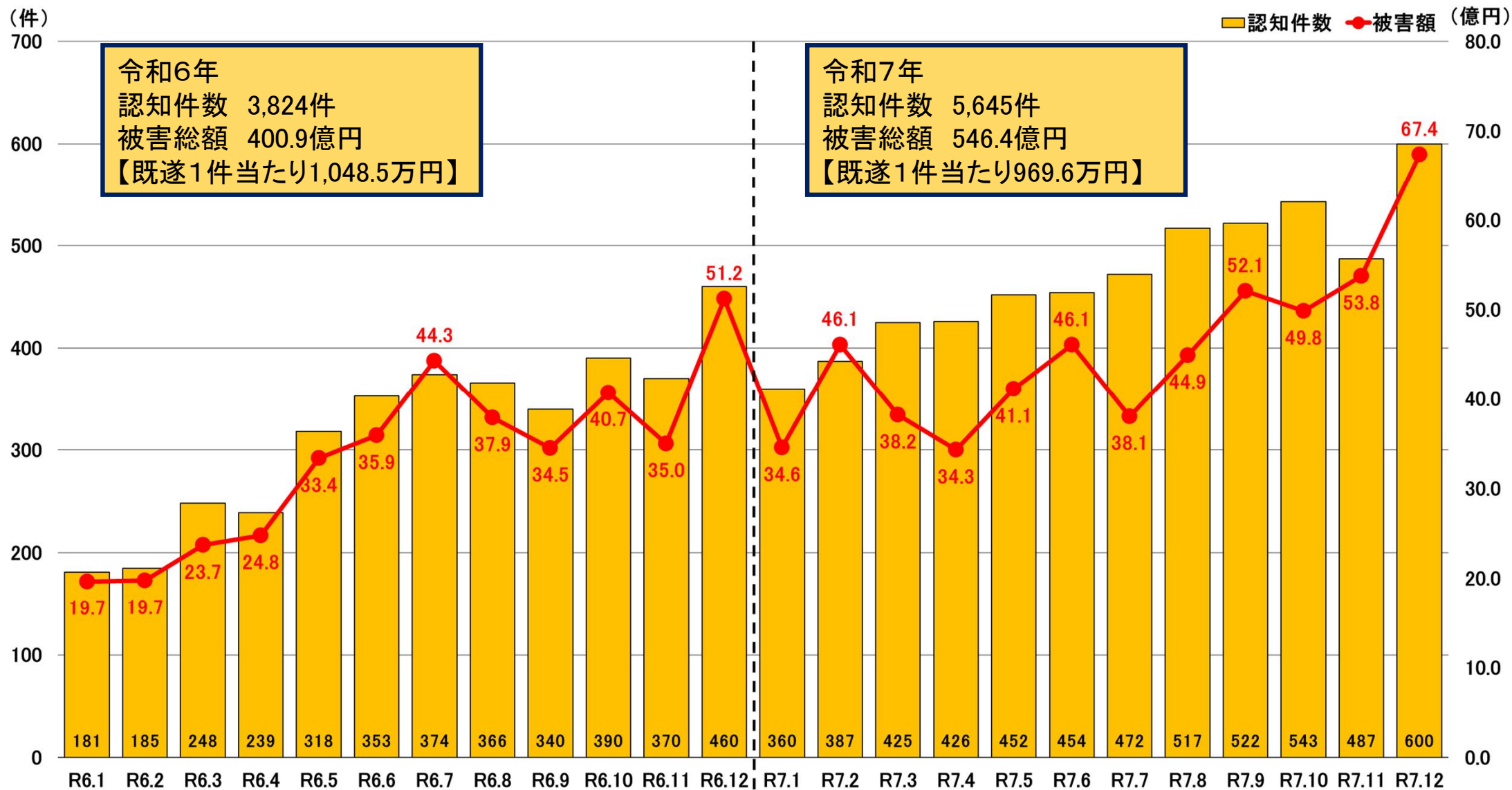
○ 振込型は、暗号資産送信型よりも1件当たりの被害が高額(既述1件当たりの被害額 振込型:1,403.2万円、暗号資産送信型:1,135.9万円)

○ 振込型のうち、IBは認知件数の70.8%、被害額の80.7%、**IBによる被害が多数**を占める

○ ATM、IB共に**高齢者の1件当たりの被害額が高額**となる傾向

○ 暗号資産送信型は、振込型に比べて20代～40代の被害割合が多く、高齢者だけでなく**幅広い年代に被害が及んでいる**。

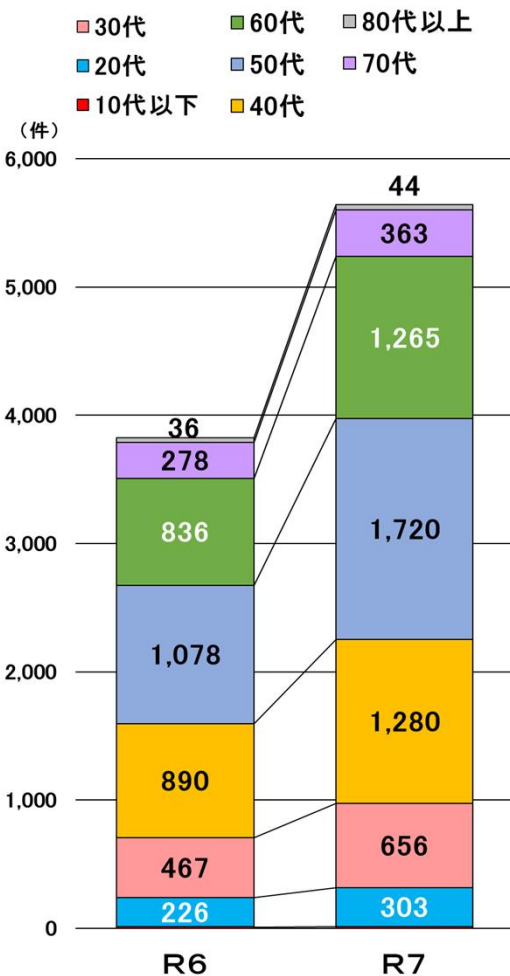
SNS型ロマンス詐欺の被害状況



年間を通してマッチングアプリ、Instagramを端緒とする被害が顕著

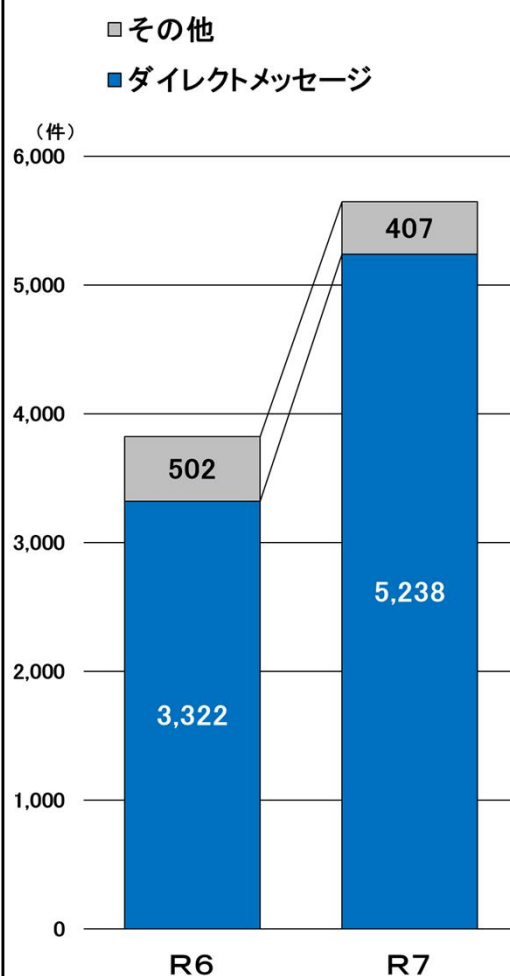
SNS型ロマンス詐欺被害について

年代別



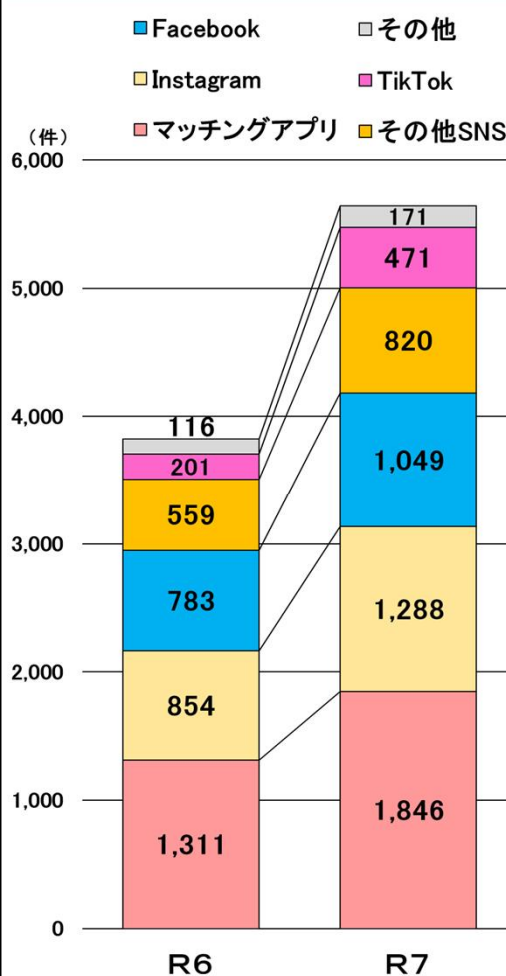
○ **40代～60代の被害が全体の75.6%を占める**

当初接触手段



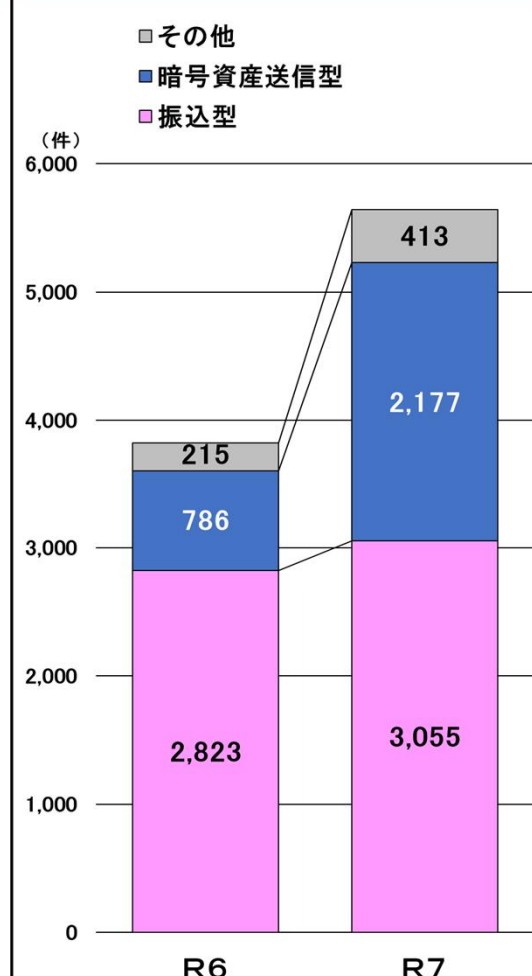
○ **ダイレクトメッセージが全体の92.8%を占める**

当初接触ツール



○ **マッチングアプリが全体の32.7%を占め、次いでInstagram(22.8%)、Facebook(18.6%)が多い**

主な被害金等 交付形態別



○ **暗号資産送信型の被害が急増(前年比+177.0%)**

SNS型ロマンス詐欺の主な被害金等交付形態について

振込型

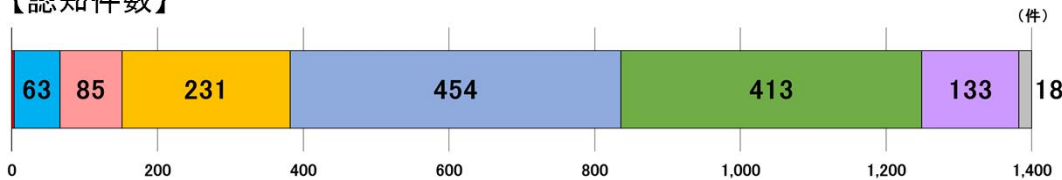
認知件数 3,055件(+232件、+8.2%)(全体の約5割)
被害額 276.0億円(-34.6億円、-11.1%)(全体の約5割)

【内訳】

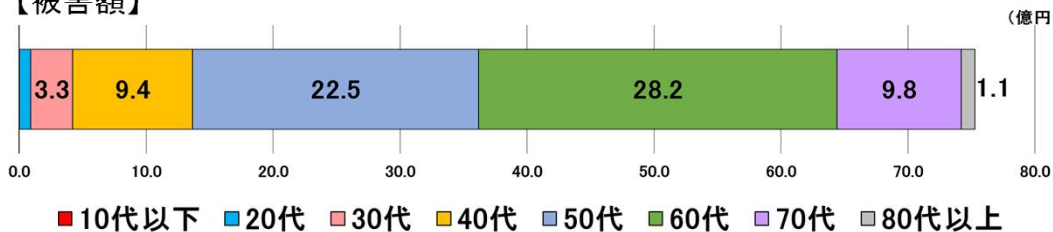
- ・ ATM 認知件数 1,400件、被害額 75.3億円
- ・ IB 認知件数 1,551件、被害額 189.2億円
- ・ 窓口 認知件数 104件、被害額 11.5億円

【SNS型ロマンス詐欺(振込型(ATM))の年代別被害状況】

【認知件数】

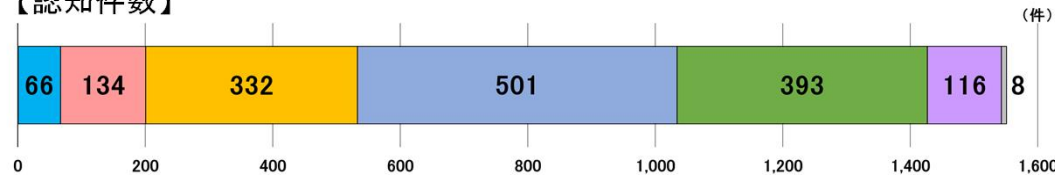


【被害額】

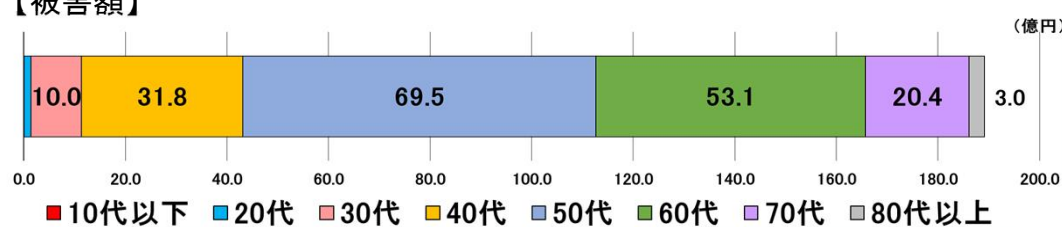


【SNS型ロマンス詐欺(振込型(IB))の年代別被害状況】

【認知件数】



【被害額】

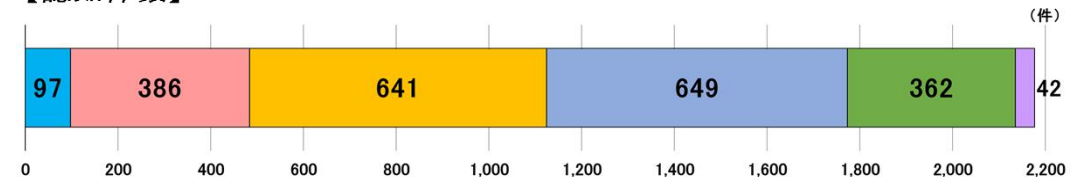


暗号資産送信型

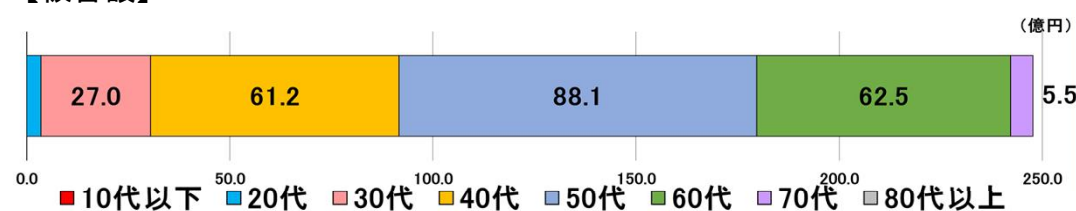
認知件数 2,177件(+1,391件、+177.0%)(全体の約4割)
被害額 247.7億円(+162.2億円、+189.7%)(全体の約5割)

【SNS型ロマンス詐欺(暗号資産送信型)の年代別被害状況】

【認知件数】



【被害額】



- **暗号資産送信型**は振込型よりも1件当たりの被害が高額(既述1件当たりの被害額 暗号資産送信型:1,137.9万円、振込型:903.3万円)
- 振込型のうち、IBは認知件数の50.8%、被害額の68.5%を占める
- ATM、IB共に高齢者の1件当たりの被害額が高額となる傾向
- 暗号資産送信型は、振込型に比べて20代～30代の被害も多く、幅広い年代に被害が及んでいる。

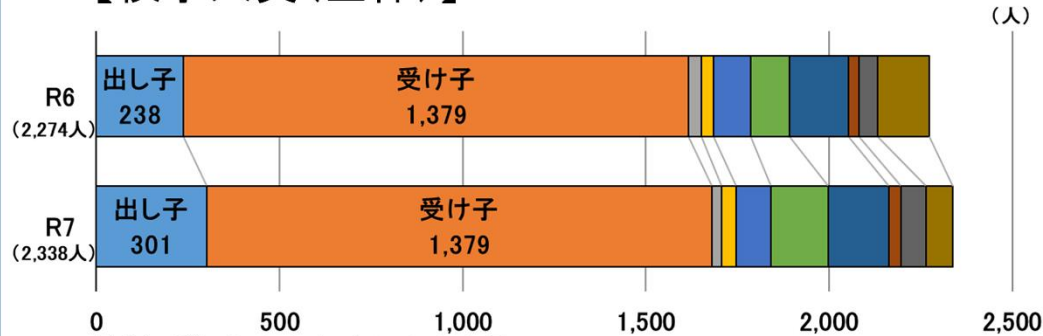
令和7年の検挙状況

特殊詐欺

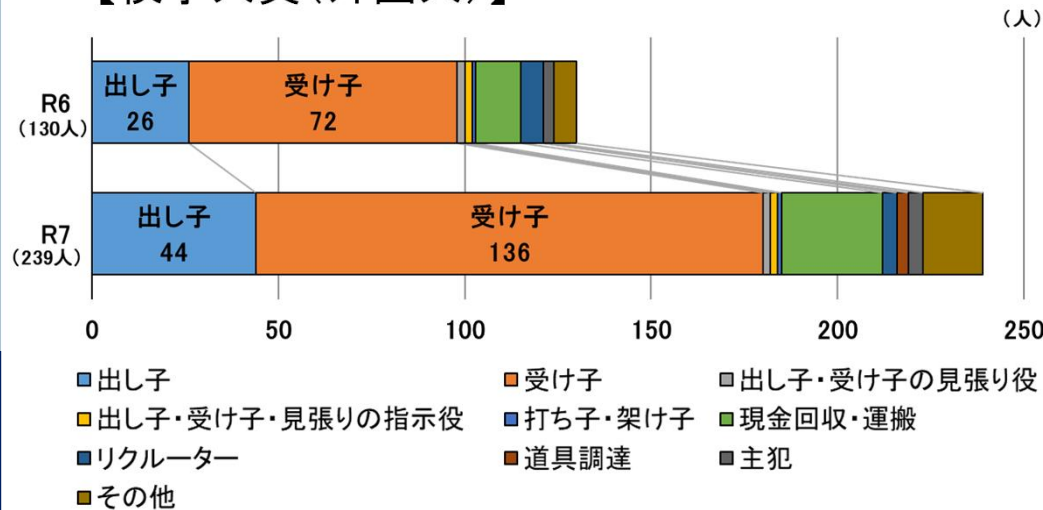
◆ 検挙件数 6,575件 (-1件、-0.0%)

◆ 検挙人員 2,338人 (+64人、+2.8%)

【検挙人員(全体)】



【検挙人員(外国人)】



○ 検挙人員は前年比で増加

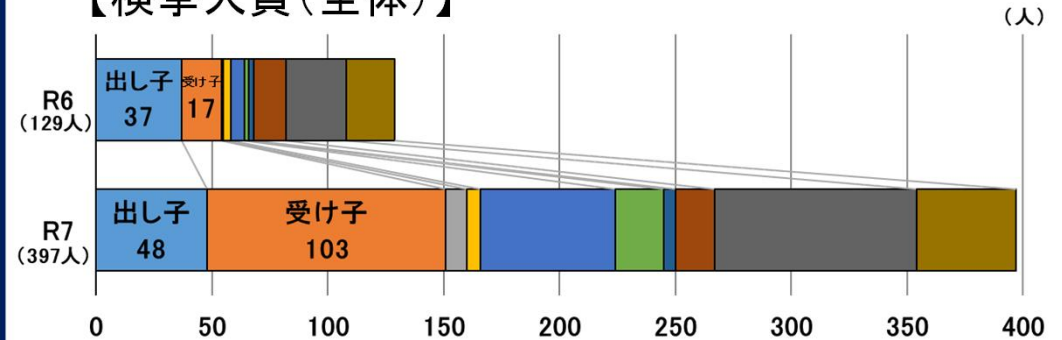
○ 外国人の検挙人員は約1.8倍に増加

SNS型投資・ロマンス詐欺

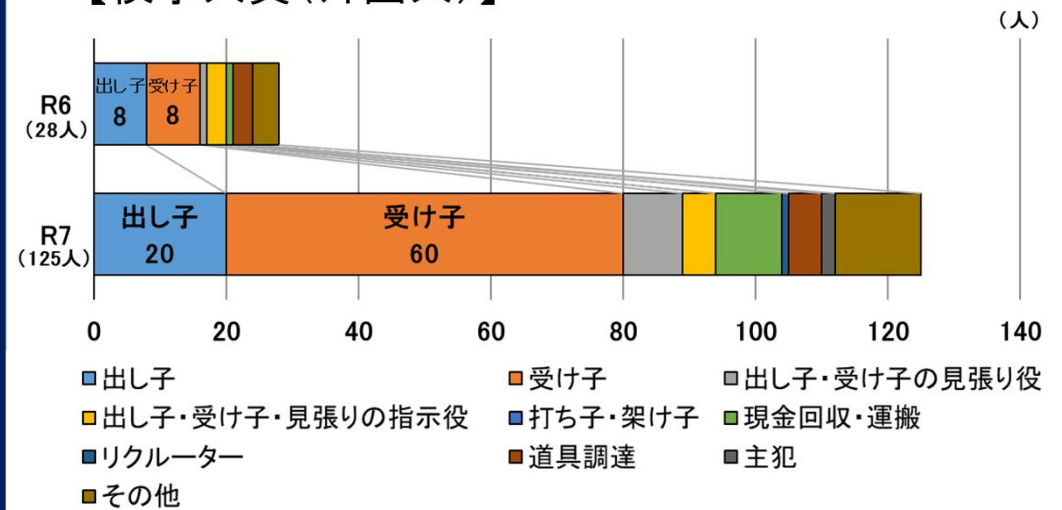
◆ 検挙件数 630件 (+368件、+140.5%)

◆ 検挙人員 397人 (+268人、+207.8%)

【検挙人員(全体)】



【検挙人員(外国人)】



○ 検挙件数は前年比約2.4倍、検挙人員は前年比約3.1倍と、いずれも大幅増加

○ 外国人の受け子の検挙人員の増加が顕著

海外拠点への取組

令和7年中における海外拠点に関する特殊詐欺事件被疑者の検挙状況

番号	検挙年月	国名	罪名	検挙人数
1	R7.2	タイ	詐欺・詐欺未遂	5人
2	R7.4	タイ	詐欺	1人
3	R7.4	カンボジア	詐欺、窃盗	1人
4	R7.5	フィリピン	窃盗	1人
5	R7.6	マレーシア	詐欺	1人
6	R7.6	マレーシア	詐欺	1人
7	R7.7	マレーシア	詐欺	1人
8	R7.8	フィリピン	窃盗	1人
9	R7.8	カンボジア	詐欺未遂	29人
10	R7.10	フィリピン	窃盗	6人
11	R7.10	カンボジア	組織的犯罪処罰法違反 (組織的詐欺)	2人
12	R7.10	マレーシア	詐欺	4人
13	R7.10	フィリピン	窃盗	1人
合計				54人

※詐欺は電子計算機使用詐欺を含む。

海外拠点で稼働していた者の供述

- 拠点の出入口は門扉があり、塀が高く有刺鉄線が張り巡らされていた。また、出入口には銃を持つ警備員がおり、自由に出入りできない状態。
- パスポートとスマホを取り上げられ、帰るなら数百万払えと言われた。
- 架け子をする前に、マニュアルを何日も覚えさせられた。
- 仕事後も反省検討会をさせられたり、自由な時間はほとんどなかった。
- 詐欺をやりたくないと言うと、「臓器を売るぞ」、「家族を殺す」等と脅された。
- ミスをしたり、管理者の指示どおりにやらないと暴力を受け、ひどいときにはアルコールをかけられ火をつけられた。



関係諸国との一層の緊密な連携

令和7年中における主なハイレベル協議

- ・ 4月 タイ国家警察幹部が警察庁を訪問し、警察庁長官と協議
- ・ 4月 組織犯罪対策部長らがタイを訪問し、国家警察幹部と協議
- ・ 6月 組織犯罪対策部長らがカンボジアを訪問し、国家警察幹部等と協議
- ・ 8月 組織犯罪対策部長らがフィリピン及びマレーシアを訪問し、国家警察等と協議
- ・ 12月 日韓警察協議において、韓国警察と協議
- ・ 12月 東京においてアジア詐欺対策国際会議を開催し詐欺対策について協議。
14か国3機関が参加。タイ・カンボジア・マレーシア等7か国と組織的詐欺についてのバイ会談 等



【タイ国家警察幹部と警察庁幹部】



【マレーシア訪問】